

ってからに。」

于禪子うぜんしは言った。

「あなたのことをせつかちな奴だ言っている人がいるようだが、果たして如何いかん、やっぱりその通りだったんだね。」

余説

本話は、『訳解笑林広記』「殊粟部しゆつぶ」(生まれつき一風変わった人の話)の第二話。第一話「作擗さくゆ」に引き続き、第二話「燕衣ねつゐ」も、「異常なまでに気の長い人」の話が取り上げられている。

この話は、目の前で酒を飲んでいる人の衣服に火が燃え移っているというのに、「異常なまでに気の長い人」は、それをすぐには言おうとせず、言うべきか否か思いあぐねた末に、ゆつくりと、そして至極もったいぶった言葉遣いで、衣服に火が燃え移っていることを相手に告げる。また、ここで衣服に火が着いていた方の男は「異常なまでに気の短い人」と設定されており、より大きな笑いを誘う仕掛けになっている。そして、「気の長すぎる男」は、さらに言う。「周りの人たちは、あなたのことをせつかちな人などと言っているようですが、私には思いも寄りませんでした、あなたが本当に、そんなにまでもせつかちな人だったなんて。(外人道君性急。不料果然。)」と。

この話の「笑いのツボ」は、言ってみれば、尻に火が着いている人を見ても、それをすぐには相手に教えようとしなない、非常識なまでに反応の鈍い男の「常軌を逸した鈍臭さどんくさ」にあるのであろう。そして、そのような「異常なまでに気の長い男(「一最性緩せいかん」)」を、「異常なまでに気の短い男(「一最性急せいかん」)」と対比させたところに、構成上の配慮がある、ということであろう。

An Annotated Translation of *Yi jie Xiao lin guang ji*, 10

Yosuke KAWAKAMI

Center of Liberal Arts and Sciences, Faculty of Engineering